



灸道湖

CONTENTS

令和7(2025)年「新年のご挨拶」と
200号発行について …… 2～4

教育研修部コラム “Fact first” …… 5～6

新人紹介 …… 6

令和6年度 松江医療センター懇話会・
地域医療連携交流会を開催しました。 …… 7

「ふれあいまつり」を5年ぶりに開催しました。… 8～9

「還暦・20歳を祝う会」
～想いをのせて、届けことのは～ …… 10

人生を考えるきっかけでありたい
—ふれあい祭りで感じたこと— …… 11

外来診療表 …… 12



灸道湖夕景



令和7(2025)年「新年のご挨拶」と 200号発行について

院長 古和 久典

新年あけましておめでとうございます。
皆様には希望や期待を持たれて恙なく新年
を迎えられましたことと思います。今年の
皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

紙面の許す範囲で2024年を振り返ります
と、元旦に震度7の能登半島地震、翌2日
には羽田空港で能登半島地震の救援物資を
運ぶための海上保安庁機が日航機と衝突し
炎上という大変痛ましいことが続いた1年
の幕開けとなりました。その後も4月には
愛媛県、高知県で震度6弱、8月に宮崎で
震度6弱、神奈川で震度5弱と地震が続き
ました。宮崎の地震では気象庁が初めて南
海トラフ地震の臨時情報を発表するなど地
域によっては日常生活に少なからず影響が
出たと伺っています。7月、8月には各地
で記録的な豪雨があり、9月には能登半島
地震の復旧工事や仮設住宅に被害を及ぼす
能登半島豪雨があり、住民の落胆されたご
様子はいたたまれない気持ちになりました。
遅い梅雨入りが明けると2023年と同じよう
な猛暑が続き、10月末でも海水浴がニュー

スで報じられる程の残暑でした。その残暑
が去ると瞬く間に冬の寒さが到来したため、
厚手のコートを着ながら紅葉を見るといっ
た極端な気象に振り回された1年のように
思います。以前から私たちは、暦をみなが
ら四季を味わい、季節の変化に体調や衣食
を合わせて社会生活を送ってきましたが、
自然や自然災害には暦も祝日もないことを
教えられた1年でした。あらためて、自然
に畏怖の念を持つことを忘れず、自然災害
などに対する準備を怠ってはいけないこと
を肝に銘じることが大切であると思います。

スポーツでは、メジャーリーグベースボー
ルやパリ2024オリンピック・パラリンピ
ック競技大会などで多くの日本人の活躍が、
明るい話題を数多く届けてくれました。

医療社会面に目を向けますと、3月に健
康食品による健康被害が報じられました。
また、年間を通してジェネリック医薬品の
供給不足が常態化しており、より安心でき
る供給体制の改善や構築が望まれています。
脳神経領域では、早期アルツハイマー病

(アルツハイマー病による軽度認知障害や軽度の認知症)の進行を抑制する薬剤として、2種類の抗アミロイドβ抗体薬が承認されました。当院でも本薬剤に対する診療体制を整備し、適応ありと判断された患者さんに定期的な点滴投与を行っています。筋萎縮性側索硬化症に対しては、発症早期の症状の進行抑制効果が確認された高用量メチルコバラミンが投与可能となり、対応を進めています。さらに、12月27日にはSOD1遺伝子変異を有する筋萎縮性側索硬化症治療薬の製造販売が承認されました。松江医療センターでは、必要な治療薬が必要な患者さんに安心して届くよう、なお一層努めていく所存です。

当院では、コロナ禍のため中止していた「ふれあい祭り」を5年ぶりに開催いたしました。地域住民の皆様にご来院頂き、健康関連の催しものなどに参加して頂きました。また、午後からの院内コンサートには入院患者さんの笑顔や歌声があふれていました。同じく医師会の先生方との懇話会や地域連携交流会を再開し、たくさんの励ましやお言葉を頂戴しました。

2025年は、十干の「乙」と十二支の「巳」が組み合わさった「乙巳(きのとみ)」です。Googleによりますと、「巳」には「新

しい自分に生まれ変わる」「幸せな未来をつかむ」などの意味があり、へびが脱皮するように新しい自分に出会える年になるともいわれています。また、草木の強い生命力と蛇の復活再生が重なる縁起のいい年回りとも考えられるそうです。当院では2024年11月より病棟集約を実施しましたが、より質の高い診療により患者さんの快復に繋がります様努めていく所存です。

申し上げるのが遅れましたが、本号は、宍道湖200号の記念号となります。昭和61年4月1日に47号が再刊という形で発刊され、その後は年4回の発行で平成11年7月に100号記念号、そして今回、令和7年1月に200号発行の運びとなりました。現在、126号以降はホームページからご覧頂くことができますので、お時間の許すときにお立ち寄りください。既刊号からは当時の世相や関心事を垣間見ることができますとともに、当院が歩んできた道跡を教えてくれる貴重な財産といえます。300号に向けて、一号ずつ積み重ねていくことの重要性和将来振り返ったときに残念な思いをすることがないように責任を感じている次第です。

当院の診療の中心は、「呼吸器病センター」として結核を含めた呼吸器疾患全般の診療と、政策医療として神経難病や筋ジストロ

フィー、重症心身障がいのセイフティネット分野の診療であり、後者は2次医療圏を超えて取り組んできました。治療法がないかあったとしても十分な満足とは言えない神経難病に対して、当院では短期集中入院リハビリテーションを行うことにより、日常生活動作（ADL）の改善が得られることの経験を蓄積してきました。さらに、保険診療は一部の疾患（※1）に限られていますが、2023年10月よりHAL®医療用下肢タイプ（Mサイズ）（※2）を山陰地方で初めて本格導入し、2025年1月からSサイ

ズを追加し、より多くの皆様に対応できるように準備致しました。

これからも当院を必要としている患者さんへの診療に加えて、患者さんが安心して在宅生活を送ることができる専門的な在宅支援に力を注ぐ体制づくりを進め、地域から求められる医療を提供していく所存です。

皆様方には、一層のご支援ご尽力をお願い申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

（※1）脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、シャルコー・マリー・トゥース病、遠位型ミオパチー、封入体筋炎、先天性ミオパチー、筋ジストロフィー、HTLV-1関連脊髄症、遺伝性痙性対麻痺

（※2）HAL®医療用下肢タイプ



"Fact first"

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹



2025年あけましておめでとうございます。本年も教育研修部をどうぞよろしく願いいたします！

昨年11月に自分の出身医局の開講50周年記念の講演会と祝賀会に参加してきました。いわゆるレジェンドの先生が多く参加されていましたが、その中に自分が若かりし頃の助教授（当時は准教授をこう呼んでました）の先生がいらっしゃいました。お元気そうで何よりでした。しかし、当時はとても厳しい先生でした。口癖は「耳学問はダメ！」「エビデンスありますか？」「それホントですか？」でした。言われた方はタジタジになります。当時は恐れ慄いていましたが、実は本質をついたご指導であり、その先生の真意は「fact（ファクト：事実）に基づいて医療をせよ」ということなのだと解釈して今でも胸に刻んで実践しています。

我々（医師）はfactを見抜くことが極めて重要です。症状、徴候、検査結果を判断して診断、そして治療へと導くのが「仕事」だからです。factには例えば陽性所見（とある疾患Aであれば認められるもの）と陰性所見（とある疾患Aであれば、認められないもの）があります。しかし、向き合った時にこれらが揃っていないこともあり、factとして、その患者さんは疾患Aなのに、いかにも別の疾患Bかのような偽陽性所見や偽陰性所見が混じってきたりして、factである疾患Aになかなか辿り着けない、といったことも

起こってしまうこともあるのです。

現実には落とし穴があります。だからこそ客観的な視点、エビデンスを大事にしてfact firstの姿勢で望むことが極めて重要です。例えば、これまでの自分の経験というフィルターでしか物事を見ていないと、思い込みというバイアスに陥り、fake（フェイク：偽物・でっちあげ）に踊らされたりしてしまうのです。確実にfactを捉えるためには不断の努力と、バイアスをできる限り排除して正面にfactを置くこと、わからないことはわからないままにとりあえずしておいて、どのように判断したら良いのか？急いだほうが良いのか？を必死で考える。時にはepokhe（エポケー：判断留保）、にしておいてもよい、という器（ここではイコール“我慢”かも）も重要だったりもします。急いてしまってもない推論でfakeの結論を導いて、fakeを振りまいたり、道を外れるということは絶対に避けなければいけないのです。日常業務においてもそう。factを見ずに（こんな時には得てして見えてないものですが…）、なんだか誰かのプライドだったり先行して、マウントの取り合いこみたくなったり…。残念ながら気をつけていないとそういうことは起こってしまいます。どうしたら良いか。しつこいですが、大事なことはfactを正面に置くこと。できるだけfakeを排除すること。情報には一次情報とか二次情報までは信用して良いでしょう。出どころのわからない加工された三次情報には要注意です。自分の得

た情報がfactそのものであるのか？それともそれに近い情報であるのか？の見極め、がまずは重要なのです。

我々の業界でそのfactの塊と言える、拠り所となるものが各学会が出しているガイドラインやステートメントといったものになります。これらはきちんとした手順を踏んだ二次情報と三次情報です。呼吸器関連でも様々なガイドラインやステートメントが存在しています。例えば日本呼吸器学会から最近出たものだと「成人肺炎診療ガイドライン2024」「喘息とCOPDオーバーラップ診断と治療の手引き2023」「特発性肺線維症の治療ガイドライン2023」などなど…たくさんものがあります。2021年に日本呼吸器学会と日本呼吸ケア・リハビリテーション学会が合

同で発表した「非がん性呼吸器疾患の緩和ケア指針2021」には自分も参加させていただきました。作成委員の先生方がそれぞれfactを持ち寄って、侃侃諤諤しながら、みんなで“拠り所”をつくっていく過程が非常に勉強になりました。そうしたガイドラインやステートメントに基づく治療が、標準治療と呼ばれるものです。当院ではエビデンスに基づいた呼吸器診療を提供しております。お困りの際にはどうぞお気軽に呼吸器内科のドアを叩いてみてください。

ということで、新しい年の最初。

まずはマジメにfactに向き合う話を書いてみました。

今年もみなさん一緒にがんばりましょい！

新人紹介

4階東病棟看護師 永田 萌恵



私は、4月より4階東病棟で働いています。4階東病棟はパーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症などの疾患を持つ患者さんが多く入院されています。

初めはわからないことや覚えること、うまくいかないことが多く挫けそうな日もありましたが、いつも先輩方が優しく声をかけてくださいました。失敗してしまった時も次に活かせるよう一緒に考えてくださったり、技術面でも丁寧に教えてくださったり、多くの技術を経験できるよう声をかけてくださり、日々できることが増えています。

ある時、呼吸器を使用している患者さんが眉間に皺を寄せ辛そうな表情をしておられ、頻脈となっていました。意思疎通の困難な患者さんであるため、どこか痛いところがあるのか、体温、酸素の値など様々なことを観察しました。呼吸器マスクが少しずれていたため正しい位置に直すと患者さんの表情が和らぎ、脈拍数も徐々に落ち着きました。患者さんの伝えたいことを読み取り苦痛を取り除けたことが、とてもうれしく、やりがいを感じました。

これからも患者さんの個別性を大切に、安全・安楽な看護が提供できるように日々努力していきたいと思っています。

令和6年度 松江医療センター懇話会・ 地域医療連携交流会を開催しました。



地域医療連携係長 平野 和子

10月24日（木）、松江エクセルホテル東急で日ごろお世話になっている地域の開業医の先生、近隣の病院の先生・地域医療連携室責任者の方にご参集頂き、平成20年から行ってきた松江医療センター懇話会・地域医療連携交流会を開催しました。

懇話会では、目次外科医長による『気胸の診断と初期対応』、古和院長による『アルツハイマー病新薬による治療の進捗状況』、小林内科医長による『当院の呼吸器内科のこと考えてみた。』、そして松江市医師会会長 細田眞司先生による『松江市医師会の活動について』の講演を行いました。



懇話会

交流会では、古和久典院長の開会の挨拶に続き、島根県医師会会長 森本紀彦先生、松江市医師会副会長 伊藤健一先生からお言葉を頂戴

しました。今年は5年ぶりに懇話会・交流会を開催しましたが、松江市医師会様より協賛を頂き、院外より54名の参加申し込みがありました。また、院内からも43名の参加がありました。各テーブルでは、「日ごろお世話になっている先生と直接顔を合わせて話ができ、安心して紹介できる」、「医療の動向について、近況の共有ができた」等、顔が見える関係作りは連携を深めるために重要で、信頼し合える連携に繋がっていくと感ずることができました。

お忙しい中、ご参加いただいた開業医・病院の先生、また地域医療連携室責任者の方、当日ご協力いただいた当院職員の方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後とも、松江医療センター懇話会・地域医療連携交流会を、どうぞよろしくお願いいたします。



地域医療連携交流会



地域医療連携交流会

「ふれあいまつり」を5年ぶりに開催しました。

経営企画室長 住原 広政



令和6年10月26日（土）、
「松江医療センターふれあ
いまつり」が開催されまし
た。オープニングは松江商
業高等学校吹奏楽部による
華やかな演奏で始まり、会
場を訪れた多くの人々を迎
えました。同吹奏楽部は、
全日本マーチングコンテス



松江商業高等学校吹奏楽部による演奏



調剤体験



心肺蘇生

トに出場し、全国大会でもその実力を証明した名門校。今回の演奏でも、力強く心地よい音色が会場に響き渡り、来場者の心を一気に引き込みました。

ふれあいまつりは、地域のみならずみなさまに健康・医療への関心をもっていただくとともに当院を身近に感じていただくことを目的として開催しています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために長らく休止をしておりましたが、今年は5年振りの開催となりさまざまなプログラムを用意しました。

各ブースでは、来場者が積極的に参加できる「調剤体験」、「心肺蘇生体験」などがスタンプラリー形式で実施されました。これらの体験コーナーは人気を集め、楽しみながら医療技術に触れることができる貴重な機会となりました。



市民公開講演会

医師による市民公開講演会もプログラムの一環として開催されました。「その頭痛、大丈夫?」、「その咳、大丈夫?」のテーマで講演が行われ、来場者は真剣に耳を傾けていました。患者さんが作成した作品の展示も行われ、多くの来場者とその芸術的な表現に触れる時間を楽しんでいました。

また、イベントには多くのボランティアが参加し活躍してくれました。ボランティアの皆さんは、各ブースを見学される患者さんの付き添いや

各ブースでのサポートを行い、会場を明るく盛り上げてくれました。特に、ふれあいステージでは、地域の団体、大学の音楽サークルや個人による演奏が繰り広げられ、来場者とともに楽しむことができました。

さらに、イベントにはキッチンカーが出店し、来場者に美味しい食事も提供されました。ハヤシライス、たこ焼き、ジェラートなど、手軽に楽しめるグルメが並び、会場は食欲の秋にぴったりの香りで包まれました。来場者は、食事を楽しみながらゆったりとしたひとときを過ごしていました。

病院という枠を超えたこの取り組みは、地域のみなさまとの絆を一層深める貴重なイベントとして、今後も継続的に開催していきたいと思えます。最後になりましたが、「ふれあいまつり」にご参加・ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



市民公開講演会



ふれあいステージ

「還暦・20歳を祝う会」 ～想いをのせて、届けことのは～



保育士 上岡 絵美

令和6年11月13日（水）、療育訓練室において還暦を迎えられた方1名、20歳を迎えられた方1名を対象に「還暦・20歳を祝う会」を開催しました。お二人ともご家族や職員に見守られ緊張されている様子も見られましたが、「おめでとうございます」の言葉もらい、嬉し恥ずかしそうな表情もされていました。



第一部では、池田副院長が式辞を述べ、家族会会長をはじめ来賓の皆様よりお祝いの言葉をいただきました。緑が丘養護学校教頭先生より対象者の学生時代の様子などお話をお聴きし、懐かしい思い出に参加者みんなで想いを馳せました。答辞では、お二人からご家族への感謝の気持ちを「ありがとう」の言葉に込めて職員と一緒に伝えられました。

第二部のお祝い会では、久保田小児科医長によるお祝いの言葉の後、島根大学書道部の学生さん2名をお呼びして書道パフォーマンスを披露していただきました。BGMで対象者の好きな曲が流れる中、力強い筆さばきで作品を書き上げてくださいました。最後には会場の皆さんに色とりどりの葉っぱの画用紙を作品に貼っていただき完成しました。



作品の中には対象者の名前の一文字が入れてあり、ご家族から名前に込められた想いやエピソードをお話しいただき、感極まる場面もありました。今回の「還暦・20歳を祝う会」が皆さんそれぞれの気持ちを『言の葉』にのせて伝え合い、人と人との出会いや繋がりを実感する和やかな場になっていたら幸いです。この度、還暦・20歳を迎えられた方々、本当におめでとうございます。

人生を考えるきっかけでありたい —ふれあい祭りで感じたこと—



感染管理認定看護師 森山由美子

10月26日、5年ぶりに当院で“ふれあい祭り”が開催されました。当日はお天気も良く、たくさんの方が来場していただき、私たち専門・認定看護師は、「人生会議川柳」と「もしバナカードゲーム」のブースを開かせていただきました。

「人生会議」とは、もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族や友人・大切な人、医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組を意味します。「川柳」という縛りが書きづらかったかもしれませんが、9名の方に川柳を作っていただきました。「人生会議」について、私たちは普段考えることを避けてしまいそうなテーマですが、それぞれの思いを川柳にのせて表現していただきました。作っていただいた川柳には、ご家族を大切に思う気持ちや、共に過ごすことができる感謝の思いを複数書いていただき、そのような気持ちに触れ、とても温かい気持ちになりました。

また、「もしバナカードゲーム」では、2組計6名（最年少5歳！）の方が体験していただきました。「もしバナカードゲーム」は、もしもの時（余命が半年と言われた時）に自分がどのようなことを大切にするかを考え、最終的に手元に残った5枚のカードから、特に大切なカードを3枚選択し、ほかのプレイヤーに披露する、というゲームです。ゲームを通してご家族・友人と、もしもの時について話し合い、自分の願いを伝え、理解してもらうきっかけにもなります。体験してくださった方の中には、「痛みがない」のカードを選択し、「痛いのは絶対嫌だから！」と家族に伝えておられる方や、どのカードも捨てがたい…とじっくり悩まれる方、「お友達と離れるのは嫌だな…」と考える方、皆様笑いながらも、真剣に取り組んでおられました。

大切にしたいことは、年齢やライフステージの変化によって優先順位が変わっていきます。もちろん私も、何度やっても同じカードを選択することはありません。変化することが当たり前のものなので、定期的に取り組むのもよいのではないのでしょうか？「もしバナカードゲーム」を体験してみたい、自分自身でも気が付かない思いや揺らぎを、カードゲームを通して理解したい方がおられましたら、ぜひ専門・認定看護師にお声掛けください。話しにくいことを身近に、当たり前、みんなで考えていけることが専門・認定看護師の願いです。



外来診療表

お気軽にご相談下さい

令和7年1月1日現在

診療科	曜日	月	火	水	木	金	専門領域	
呼吸器内科		岩本(初)	坪内(初)	木村(初)	門脇(初)	池田(初)	【呼吸器内科】 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 岩本 信一 坪内 佑介	呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
		坪内	小林	岩本		木村		
呼吸器外科		目次		目次		目次	【呼吸器外科】 目次 裕之	呼吸器外科・一般外科
脳神経内科 (予約優先)		中島 (完全予約制)	古和	深田	足立	交替制		
		来海	下山		中野	細田		
循環器内科						生馬	【循環器内科】 生馬 勲	循環器一般
消化器内科		法正						
小児科 発達 専門外来		久保田 (初診) (午後のみ) (予約制)	久保田 (午前のみ) (予約制)		久保田 (午前のみ) 前垣 (第2木曜のみ) (予約制)		【小児科】 久保田智香 前垣 義弘	重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害
	予防接種		(予約制)					
麻酔科	腰痛外来			西村 (予約制)			【麻酔科】 西村友紀子	麻酔科領域
特 殊	睡眠時無呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約制)			
	息切れ外来		池田 (予約制)					
外 来	喘息 アレルギー外来					池田 (予約制)	【小児科】 久保田智香 前垣 義弘	重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害
	咳嗽外来					池田 (予約制)		
外 来	禁煙外来				呼吸器内科 担当医(予約制)		【消化器内科】 法正 恵子	消化器内科領域
	アスベスト外来		(予約制)	(予約制)	(予約制)			
外 来	もの忘れ外来			深田 (予約制)			【消化器内科】 法正 恵子	消化器内科領域
	ボツリヌス療法外来	(予約制)						
その他	セカンド オピニオン外来	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)		

診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30
自動再来受付 8:00~11:30

独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター
呼吸器病センター

〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号
電話 (0852) 21-6131(代)
地域医療連携室直通電話 (0852) 24-7671
地域医療連携室 F A X (0852) 24-7661



特 殊 外 来	睡眠時無呼吸外来	診療日：毎週木曜日 14:00~16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00~15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息 アレルギー外来	診療日：毎週金曜日 9:00~12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診療日：毎週金曜日 9:00~12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診療日：毎週木曜日 9:00~9:30 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30~11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	もの忘れ外来	診療日：毎週水曜日 9:00~12:00 (要予約) 内容と特色：もの忘れの診断と治療を行います。
	ボツリヌス療法外来	診療日：毎週月曜日 9:00~12:00 (要予約) 内容と特色：痙縮(筋肉のつっぱり)に対して、筋肉の緊張をやわらげる薬剤(ボツリヌス毒素)を注射して痙縮を軽減させる治療を行います。
	小児科発達 専門外来	診療日：毎週月曜日 13:00~15:00 (初診のみ)、毎週火・木曜日 9:00~12:00 (要予約) 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
	腰痛外来	診療日：毎週水曜日 9:00~12:00 (要予約) 内容と特色：主にぎっくり腰などの痛みの治療を行っています。薬物療法や神経ブロックなどで痛みの緩和を目指します。
セカンド オピニオン外来	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・脳神経内科・小児科(筋ジス)の専門医(医長)が担当いたします。	
肺がん検診	診療日：毎週月~金曜日 11:00~11:30 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,500円	